

# 三陸鉄道リアス線全線開通！

光り輝く三陸を目指して

「あまちゃん」で注目浴びた「三陸鉄道」

2013年NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台となった岩手県三陸海岸。

ここを走っているのが、三鉄（さんてつ）の愛称で親しまれている「三陸鉄道」です。「あまちゃん」の冒頭では、毎朝、白の車体に赤と青のラインが入った三鉄の車両が走る光景が全国に流れました。

1984年4月1日、旧国鉄の特定地方交通線から転換した鉄道としては全国初の第三セクター鉄道としてスタート、宮古駅と久慈駅を結ぶ延長71・0kmの北リアス線、盛駅（大船渡市）と釜石駅を結ぶ延長36・6kmの南リアス線の2つの路線を運営してきました。

2011年3月11日の東日本大震災津波で大きな被害を受けた路線も、国を始め、全国、世界の皆さんの御支援もいただきながら、順次復旧を進め、2014年4月には、全線で運行再開を果たすことができました。

「あまちゃん」ブームは落ち着きを見せていますが、団体のお客様や震災学習列車などの企画列車のお客様、近年は台湾などのインバウンドのお客様など多くの人が訪れています。

2019年が飛躍の1年

本年3月23日、JR山田線（宮古・釜石間）の移管を受け、これまでの南北リアス線と合わせ、盛駅（大船渡市）から久慈駅までの163kmがリアス線として一つにつながります。第三セクター鉄道としては、日本一長い鉄道の誕生です。

三陸鉄道にとっては、1984年の開業、2014年の全線運行再開に次ぐ、「第3のスタート」となります。2019年は、三陸鉄道のみならず、三陸地域にとっても、飛躍に向けた1年にしていく大きなチャンスです。リアス線の開通（3月23日）、大型外国客船ダイヤモンド・プリンセスの宮古港寄港（4月25日）、JR東日本重点販売地域の指定（4～6月）、三陸防災復興プロジェクト2019（6～8月）、ラグビーワールドカップ2019釜石開催（9・10月）などが予定されています。国内外の多くの皆さんが三陸を訪れ、三鉄にも乗っていただけるよう準備を進めています。

## 三陸鉄道開通顕彰碑

三陸鉄道宮古駅の駅前広場の一角に、「三陸鉄道開通顕彰碑」が建っています。三陸鉄道が開通した1984年4月に建



三陸鉄道株式会社  
代表取締役社長

中村 一郎

立されたこの碑には、「三陸鉄道 いま成る」と記された当時の岩手県知事・中村直と宮古市長・千田真一の碑文が刻まれています。三陸の先人が、津波にもめげずに立ち上がり、フェーン災害、ヤマセの悲風等幾多の悪条件に抗しつつ、明治以来の悲願を達成したことが綴られています。

更に、「後進よ この業の上に 更に三陸の未来を創建せよ…」と続きます。私は、時折、この碑の前に立ちます。鉄道建設にかけた先人の苦勞と熱意に思いを馳せながら、我々に託された「三陸の未来の創建」のために改めて全力で取り組んでいかなければならないとの思いを新たにしています。

おわりに

三陸鉄道は、開業から35年が経過します。全国的に地方鉄道を巡る厳しい環境の中、三陸鉄道も例外ではありませんが、「笑顔をつなぐ、ずっと」という会社のモットーを大切にしながら、地元の方々の足を確保するとともに、全国の皆さんにも乗っていただき、地域の観光振興にも貢献するという2つの使命を今後とも、しっかり果たしていきたいと思えます。